

第3章 本市のこれまでの取組

大綱の策定にあたっては、前期計画にあたる第2次創甲斐教育大綱の達成状況などの検証結果を十分に考慮する必要があります。

本章では、令和2(2020)年度から令和6(2024)年度までの取組について、主な項目を中心に基本方針ごとにまとめました。この結果を踏まえ、引続き効果的な取組を推進し、成果として示すことができるよう、本大綱第5章の各施策に繋げていきます。

基本目標1

心豊かにたくましく、共に生きる甲斐っ子づくり

基本方針1 バランスのとれた知・徳・体の育成

○ 確かな学力の育成

- ・ 小学1年生に「やはたいぬくん こどもあいさつ運動 字をおぼえようキャンペーン」を通じて「漢字ハンカチ」を配付し、また、小学1年生から3年生を対象に国語教材を公費負担することにより、国語学習の推進を図った。
- ・ 1人1台端末及びICT環境を整備し、児童生徒一人ひとりの学習状況に応じた授業の推進を図った。

○ 豊かな心の育成

- ・ 不登校については、オークルーム[※]の事業拡大や、民間の塾との連携により学外適応指導教室を設置し、児童生徒の学びの機会を広げることができた。また、「不登校対策リーフレット」「いじめ防止リーフレット」を全教職員に配付し、児童生徒に寄り添った生徒指導を行った。

○ 健やかな体の育成

- ・ 「ラジオ体操のまち甲斐市」として、体育の授業や学校行事において、ラジオ体操を推進する取組を行った。

○ 幼児教育の推進

- ・ 円滑な小学校教育への接続を図るため、保育園等と小学校との連携により、小学生との交流と小学校の生活環境を知る機会を継続的に設けた。

主な指標	H30年度の 現況値	R6年度の 目標値	R5年度の 実績値
不登校児童生徒の割合(長期欠席児童生徒用アンケート)	小中全体 1.14%	小中全体 1.10%	小中全体 4.00%
いじめの解消率(児童生徒のいじめに関する状況調査)	小中全体 99.0%	小中全体 100.0%	小中全体 98.7%

※「オークルーム」：市内に在住する小学校5年生から中学校3年生までの児童生徒のうち、心理的・情緒的な理由により学校に登校できない状態にある、児童生徒の学校生活への復帰や社会的自立を支援するための教室で、市内に2か所設置している教育支援センターのこと。

基本方針2 ふるさとに誇りや愛着を持ち、活躍できる人材の育成

○ 地域や社会で活躍する人材の育成

- ・郷土の歴史や文化への理解を深めるため、県内及び市内の文化関係機関・施設等との連携、利用促進を図り、また、芸術鑑賞教室などを通して質の高い文化・芸術に触れ、文化・芸術に関する関心を育んだ。
- ・日本航空学園と協定を締結し、スポーツや文化、芸術活動等に触れる機会を創出するとともに、サントクノカレッジと将来の地方創生を担う人材の育成を推進することを目的に協定を締結し、官学の連携を図った。

○ キャリア教育の推進

- ・生徒指導担当会議を定期的に行い、小中学校間での情報交換を行い、小中連携した取組の推進を図った。

主な指標	H30年度の 現況値	R6年度の 目標値	R5年度の 実績値
「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあるか」の設問に「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査)	小 58.2% 中 46.8%	小 65.0% 中 55.0%	小 82.2% 中 67.2%
「将来の夢や希望を持っているか」の設問に「しっかり持っている、持っている」と回答した児童生徒の割合(学校評価アンケート)	小 88.4% 中 75.9%	小 90.0% 中 80.0%	小 86.2% 中 69.3%

基本方針3 家庭・地域・学校による教育の推進

○ 家庭・地域の教育力の向上

- ・甲斐市通学路交通安全プログラムに基づき、関係機関と合同点検を実施し、対策必要箇所に応じた具体的な実施メニューを検討するとともに、連携して対策を実施した。
- ・市内全ての小中学校に学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を設置し、地域と学校の連携による充実した教育の推進を図った。

○ 家庭・地域・学校の連携・協働の推進

- ・授業参観や学校行事など、保護者だけでなく地域住民の学校への訪問を可能とし、学校と地域、子どもたちと住民が交流する場を設けた。

主な指標	H30年度の 現況値	R6年度の 目標値	R5年度の 実績値
「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の設問に、「よく参加、だいたい参加」と回答した児童生徒の割合(学校評価アンケート)	小 81.2% 中 61.8%	小 85.0% 中 65.0%	小 71.6% 中 53.9%
「教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っているか」の設問に、「とてもそう思う、そう思う」と回答した教職員の割合(学校評価アンケート)	小 93.0% 中 67.6%	小 98.0% 中 75.0%	小 90.8% 中 71.1%

基本目標2

人生を豊かにする学びとスポーツの環境づくり

基本方針4 生涯学習・文化活動の推進

○生涯学び、活動できる環境の整備充実

- ・全小学校から作品を募る山県大式書道展を毎年開催することにより国語力の向上を図った。
- ・各公民館で実施するふれあい講座、双葉ふれあい文化館等のイベントは、コロナ禍により中止、縮小等の影響があった。
- ・老朽化した公民館の設備の改修等を、公共施設個別施設計画に基づき計画的に実施した。

○青少年健全育成の推進

- ・地域で活躍する子どもの育成のため、ジュニアリーダーの確保や活動を支援し、活性化を図った。

○文化芸術に親しむ機会の充実

- ・市文化協会の文化祭、小中学校音楽祭、各公民館のふれあい祭りの実施により、市民の発表機会の充実を図った。また、小中学生の文化芸術活動の一層の振興を図るため、小中学生スポーツ・文化芸術等県外大会出場激励金の交付事業を創設した。

○歴史遺産の保存と活用及び継承

- ・歴史文化資産の保存活用を総合的・効果的に進めるため、文化財保存活用地域計画を策定した。

主な指標	H30年度の 現況値	R6年度の 目標値	R5年度の 実績値
公民館（地域ふれあい館、セミナーハウス含む）の利用者数	136,098人	143,000人	118,976人
市生涯学習施設で開催される発表会等の参加者数	10,161人	11,000人	9,004人

基本方針5 スポーツの推進

○スポーツ事業と活動機会の充実

- ・コロナ禍により、スポーツ教室等の開催が制限されるなか、「ラジオ体操」の推進や自宅でできる運動として「動画配信によるスローエアロビク教室」を開催した。また、令和4年度には、スポーツを通じた交流の場の創出として、「KAI SPORTS DAY」を企画・開催した。

○スポーツ参画体制の整備

- ・ヴァンフォーレ甲府サックスデー、山梨クィーンビーズホームタウンゲームへの対応、令和3年度には、東京2020大会 オリンピック聖火リレーへの参加協力やプロスポーツの応援を積極的に行い、一体感を醸成することで地域の活性化を図った。
- ・小中学生のスポーツ活動の一層の振興を図るため、小中学生スポーツ・文化芸術等県外大会出場激励金の交付事業を創設した。

○ スポーツ施設の整備充実

- ・ 市民一人ひとりが安全で快適に利用できる施設の整備として、社会体育施設体育館のLED化工事、テニスコートの人工芝化や体育館アリーナの床改修工事等を実施した。

主な指標	H30年度の 現況値	R6年度の 目標値	R5年度の 実績値
ラジオ体操事業への参加者数	30,670人	34,000人	32,492人
市スポーツ少年団の登録団員数	724人	750人	614人
市内スポーツ施設の利用者数	472,104人	480,000人	398,554人

基本方針6 図書館活動の推進

○ 図書館サービスの充実

- ・ 図書館への来館者数はコロナ禍の影響もあり減少したが、「甲斐・本の寺子屋」では、講演会やイベントに多くの市民が参加し、読書推進や図書館利用推進につながった。
- ・ コロナ禍において、安心して図書の利用ができるよう、各図書館に図書除菌機を導入した。
- ・ マイナンバーカードを図書館利用カードとして使用できるようにすることにより、利用者の利便性向上を図った。

○ 図書館事業の多面的推進

- ・ 幼稚園、保育園、児童館等への貸出冊数を大幅に増やし、子ども読書活動の推進を図った。

○ 子ども読書活動の推進

- ・ 4か月児向けのファーストブックに加えて、2歳児向けのセカンドブック配付を令和4(2022)年度からスタートし、家庭・地域における読書活動の推進を図った。

主な指標	H30年度の 現況値	R6年度の 目標値	R5年度の 実績値
市立図書館の入館者数	486,029人	490,000人	349,989人
「甲斐・本の寺子屋」事業への参加者数	—	250人	453人
幼稚園、保育園、児童館等への貸出冊数	12,085冊	12,500冊	17,644冊

基本目標3

だれもが安心して学べる教育環境づくり

基本方針7 質の高い教育のための環境整備

○ 学校における働き方改革の推進

- ・多忙化対策検討委員会の開催や調査等を通して、多忙化改善の取組の推進を図った。また、学校閉庁日や「きずなの日」、定時退勤日を積極的に設け、教職員の意識改革を行った。
- ・校務支援システムを活用し、成績処理や事務処理等の業務の効率化を図り、教員の負担軽減と教育の質の向上を図った。
- ・部活動ガイドラインに基づいた適切な活動時間や休養日を設定するとともに、部活動地域移行については、モデル事業に取り組み推進を図った。
- ・1人1台端末及びICT環境を整備し、高速大容量通信による学習環境を整えた。

○ 魅力ある学校を支える指導体制の充実

- ・教師力向上総合講座、特別教育講演会を実施し、学級づくりや生徒指導、ICT教育等の今日的な課題について学ぶ機会を設け、教師力の向上を図った。

○ 安全・安心で質の高い教育環境の整備

- ・甲斐市立学校施設長寿命化計画に基づき、計画的に老朽化対策を行った。

主な指標	H30年度の 現況値	R6年度の 目標値	R5年度の 実績値
「校内研究(研修)に主体的に関わっている」の設問に「とてもそう思う」と回答した教職員の割合(学校評価アンケート)	小 51.2% 中 34.2%	小 60.0% 中 50.0%	小 43.5% 中 32.1%
平日1日と土日どちらか1日を休養日としている部活動の顧問の割合(部活動指導実態調査 ※中学校のみ)	平日 87.7%	平日 100%	平日 98.3%

基本方針8 多様な学びの機会の充実と提供

○ すべての子どもの学習機会の支援

- ・貧困の連鎖を防止するため、生活保護受給世帯や生活困窮世帯の中学3年生を対象に実施していた「甲斐市子どもの学習支援事業」の対象を中学1・2年生まで拡大した。

○ 多様性を包み込む教育の推進

- ・障がい者(児)、障がいの疑いのある人とその家族の支援に関して、関係部署による支援体制と情報共有等を目的とした「健やかサポート会議」を開催するとともに、発達の気になる子どもの早期発見・早期療育を目的に、保育園、幼稚園、小学校を対象に「健やかサポート訪問」を行った。
- ・子どもたちの障がいの多様化や重複化に対応するために、医療、福祉等の関係機関と連携し、医療的ケアの訪問看護を実施するなど、教育支援体制の強化を行った。
- ・市内全ての教員を対象に、特別支援教育に係る研修会を実施し、理解を深めた。

主な指標	H30年度の 現況値	R6年度の 目標値	R5年度の 実績値
小中学校の全教員のうち、特別支援教育に関連した研修を受けた割合	小 80.3% 中 60.4%	小 95.0% 中 85.0%	小 97.0% 中 77.2%